

ばんけい

教育ほんといゅーず
かわら版こ みち
教育の小径

No.196

2025 February

2月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことは

鯖を読む

自分の都合に合わせて
数をごまかすことをい
います。生の鯖は「生き腐
れ」といわれ、足が早い
ので急いで数えました。
そのため数をごまかすこ
とが多かったそうです。

共に高め合う職場づくりを

- 学校で同僚の先生方から学んだことは、すぐに子どもたちの指導に生かすことができます。学校は教師を育てる重要な研修の場です。
- 教師は授業や子どもについて自由に語り合い、共に高め合う温かい人間関係のなかで育っていきます。

今月の
記念日 2月4日
節分

節分とは季節を分けるという意味でしたから、本来立春、立夏、立秋、立冬の前日がすべて節分でした。江戸時代以降、立春の前日のみを指すようになりました。

研修の「地産地消」とは

学校教育をめぐる環境や状況は日々変化し、子どもの成長や発達の状況も従来とは大きく違ってきました。そのために、「昔取った杵柄」だけでは対処できません。ここに教員に不断の研修が求められる理由があります。

教師の研修には、教育委員会や教育センターなど公的な機関が実施する講座等のほか、テーマを設けて実施する学校内での研修（学校研修）や民間の教育団体や研究会に自主的に参加する研修（自主研修）があります。それぞれに利点がありますが、校内での研修がきわめて重要だと考えます。

校内では全教師が同じ子どもたちを観察し指導していますから、子どもたちの実態や課題を容易に共有することができます。学校での研修は子どもの名前をだして理解し合うことができ、共通した問題意識のもとに改善策を話し合い、その結果を子どもたちの指導に直接生かすことができます。成果をみんなで確認しさらに改善させることもできます。学校研修には、こうした営みを日常的に実施できるところに最大の利点があります。

自校の子どもの実態からスタートして、自校の子どもたちの成長や課題解決に

生かすという意味で、学校研修は「地産地消」だといえます。ここに「教員は学校で育つ」といわれる理由があります。ここでは、計画的、組織的に実施される研修と、インフォーマルななかたちで実施される研修があります。後者は教育談議などといわれ、いわゆる井戸端会議のようなものです。

教師の研修は改まった場所で、時間を特定して行われるだけでなく、同僚とのふだんの会話のなかでも行われます。その意味で、毎日の職務をよりよく遂行していくことそのものが研修だといえます。そのためには校内に互いを認め合い、高め合う温かい人間関係が醸成されることが重要です。

支持的風土が教師を育てる

校内研修にうかがった学校の校長から次のような話を聞きました。

「毎月、校内で研究授業を実施しています。研究が深まるにつれて、職員室での先生方の話題が変わってきました。以前は先生方の愚痴や子どもの問題点を言い合うことが多かったのですが、いまでは子どもの成長の様子が話題になっています。『○○さんはこのような発言をしてきた』などと、授業での子どもの様子を話す教員が増えました。」

研修や研究の熱心な学校にはいくつかの共通点や特色があることに気づきます。まず、校長や研修（研究）主任を中心にした先生方のまとまりを感じます。子どもを中心に据えた話題が多いことも共通しています。授業研究の場にうかがうと、授業をよりよくやりたいという先生方の意気込みが伝わってきます。若い先生はベテランの先生から学びたい。一方ベテランの先生は自分の実践や経験などを若い先生に伝えたいという願いをもっています。共に学び合う人間関係がつけられているところにも特色があります。

学校では研修（研究）会といった計画されたフォーマルな場で学び合うことができます。しかしそれは決められた時間であり、話の内容も制約されています。いつでも、どんなことでも、気軽に相談できるのは、ふだんの職員室です。むしろ、かしこまって話すより、本音が言えたり聞けたりするものです。助言を受けたい先生の教室をたずねて、掲示物や板書事項などを見ながら話すことも効果的です。

困ったことや課題を、ひとりで抱え込まず、周囲の同僚に、いつでも、どのようなことでも、だれにでも相談できる人間関係のなかで教師は育ちます。共に高め合う支持的な職場環境づくりを進めたいものです。

① 新学級経営の基礎知識

家庭との協力体制づくり

学級での指導の効果を高めるためには、保護者の協力が欠かせません。子どもは教師と保護者が協働して関わることで成長していくからです。

例えば給食の時間に、子どもたちの健康のことやいま話題になっている食品ロスのことを考えて、「できるだけ好き嫌いをせずに、残さず食べましょう」と指導しても、そのことが家庭でも徹底されなければ、効果は期待できません。まして学校の方針と逆のことが家庭で行われると、徹底されず指導の効果があがりません。

担任は学級経営や指導の方針を保護者にしっかり伝え、保護者がそれを理解し、学校と家庭が協力して同じ方針で子どもに関わることで、指導やしつけの効果が生まれるものです。両者がちぐはぐになっていては、困るのは子どもたちです。あらゆる場面で「理解と協力」が対で語られるのはこうした意味をもっています。

家庭との協力の内容は、すべての保護者に共通して求めることと、個別の保護者に依頼することがあります。前者は、PTAなどの役員の協力を得たり保護者会の場を活用したりします。後者は、個々の子どもや家庭の状況を踏まえて個別に話し合います。

いずれにおいても大切なことは、保護者に担任の指導の方針や方法をわかりやすく伝えることです。また、担任は保護者のどのような願いや悩みでも聞き入れる、心のゆとりと広い度量をもつことです。ときには、耳の痛いことを言われることがあるかもしれませんが、家庭との協力体制づくりとは、教師と保護者が信頼し合える人間関係を地道に構築することだといえます。

Ⅱ 教育の動向

文部科学省は令和4年8月に「当面は、紙の教科書とデジタルの教科書を併用する」との方針を打ち出し、現在小学校5・6年と中学校の英語科、それに一部の算数科・数学科でデジタル教科書が提供されています。内容は紙の教科書と同じです。

興味深い調査結果が公表されています。財務省が実施した令和5年度におけるデジタル教科書と紙の教科書の活用状況です。それによると、英語科での教科書の使用について、「紙とデジタルを併用している」と答えた割合は88%と、ほぼ文部科学省の方針に沿った結果でした。ちなみに「紙のみ」は9%、「デジタルのみ」は3%でした。

デジタル教科書の活用状況

「紙とデジタルを併用している」と答えた教員にどちらの教科書の使用が多いかを聞いたところ、「デジタルが多い」は35%であったのに対して、「紙が多い」は53%でした。紙の教科書が中心に使用されていることがわかりました。これは紙の教科書が使い慣れているからだと思われます。

デジタル教科書の使用頻度は決して高いとはいえないようです。これには、紙の教科書とデジタルの同じ内容の教科書をいかに効果的に併用して使用するか、この辺りの戸惑いもあるようです。使用方法の開発が求められます。また、両者が同じ内容であることの問題点を指摘する声もあります。

連載 先人の残した言葉 16

野村 芳兵衛

**昨日の思想によって、子供を縛るのは教育でなくて訓練である。
明日の思想によって、子供を縛るのも亦教育でなくて訓練である。
教育は訓練ではない。創造である。**

野村芳兵衛は、岐阜県で分団学習を取り入れるなど大正自由教育の実践に先導的に取り組んでいました。大正13年(1924年)4月に、岐阜県内の小学校から東京・池袋に移り住み、開校したばかりの私立池袋児童の村小学校に訓導として赴任しました。児童の村小学校は、当時子どもの自由を最大限重視するという方針のもとに教育活動を展開していました。

この言葉は、野村が児童の村小学校に赴任して2年間の実践を踏まえ取りまとめた『新教育に於ける学級経営』に収められています。

野村は「昨日の思想と明日の思想とを理解し、現実の生活に立脚した万人の協力的創造が教育である」と、「教育は訓

練ではなく創造である」と定義づけています。「昨日の思想」とは、過去の考え、既存の伝統的な価値観のことです。それに対して、「明日の思想」とは、将来を見据えて、おとながつくり出した価値観のことです。野村によると、いずれもそれによって子どもを縛ることは、訓練であって、教育ではないといっているのです。

野村は、「子供は我が人生の伴侶である」「子供は親の子であっても、親の所有物ではない」ともいっているように、子どもをおとなの同行者として捉えていました。野村は家庭や地域におけるおとなと子どもの関係と、学校における教師と子どもの関係は同様であるという見方や捉え方をしていたのです。

INFORMATION

※ご注文は文溪堂代理店まで /

北先生の新刊です!

教師のリアクションカ ー「指導と評価の一体化」とは何か

「指導と評価の一体化」としての教師の適切なリアクションを具体的な事例をもとに解説!

著者 / 北 俊夫
定価 / 1,430円(税込)
発行 / 株式会社文溪堂
A5判 96ページ



「教育の小径」の
すべてのバックナンバーを
文溪堂ホームページから
お読みいただけます。

お知り合いの先生にも
お勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

編集後記

紙の教科書とデジタルの教科書には、それぞれの利点があります。紙の最大の利点は、デバイスを必要とせず、気軽にアクセスできること。デジタルの利点は、検索が容易で保管スペースを削減できることです。「教育の小径」は、紙とデジタルの両方で提供しています。デジタルは、左の二次元コードから検索できます。ご参考まで。(H記)



企画・編集: ぶんけい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂
発行日: 2025年2月1日